

# <新しさ>のために循環する表現

—女性向けファッション雑誌『InRed』を材料に—

保田祥・岡本雅史・荒牧英治

## 研究材料



『InRed』 宝島社

2008年11月～2011年8月(3か月毎12冊) / 大小見出し(編集部外記事を除く)

流行に対応した迅速な購買促進のため、常に新しい情報を提供しているアイテム・情報などの様々な新しさの表現を目的とした言語現象が観察される

カタカナ語: 「フレッシュマスキュリン」「ファッションISTA」など  
流行語: 「鉄板」「仕分け」など  
専門用語: 「スラウチ」「パテント」など  
その他にも <新しさ>を有する表現はあるのだろうか?

<新しさ>を有する表現  
一般的にあまり使用されていない表現

新しい対象物 ⇔ <新しい>名前  
既存の対象物 ⇔ 新しいもののように見せる

どのような表現が、どのように用いられているのか?  
表現は変化しているのか?

## <新しさ>のための表現

### 語の言い換えによる<新しさ>

<新しさ>を感じる表現に言い換える

頻度の変化: 外来語「リッチ(なブラウス)」  
→「ラグジュアリー〜」「リュクス〜」



- 完全に意味が伝わらない場合もある: **修飾語が多い**  
「エッジイなディテール」「アーティなワンピース」  
「マチュアリアルクローズ」「アグレッシブなトレンチ」  
「シアーなアーバンパカンススタイル」
- 既存の対象物の種類が拡大された印象
- 語感としての<新しさ>・構成音の音象徴的印象

### 語の組み換えによる<新しさ>

複合語として<新しさ>が生じる

「ボーイフレンド|デニム」  
「マカロン|カラー」



- 既存の対象物を言い換える  
(新登場らしい名づけ)
- あたかも流行しているかのように**当然のごとく用いる**

### 借用/再生/異表記による<新しさ>

借用: 他分野で概ね用いられている用語を借用  
「甘辛ミックスで奏でる」「隠し味を注入」

再生: 古い表現・漢語など/新たな用法  
「イットルック」「リアルクローズ」(60・70年代)  
→「イットな」「リアルな」(一部の要素を再生)  
「裸色」「熱帯色」(漢語)  
「アジアな空間」「乙女な大人」「CGな美顔」  
「ミニなスティック」「マリンなリボン」  
(体言から新たな形容詞用法へ)

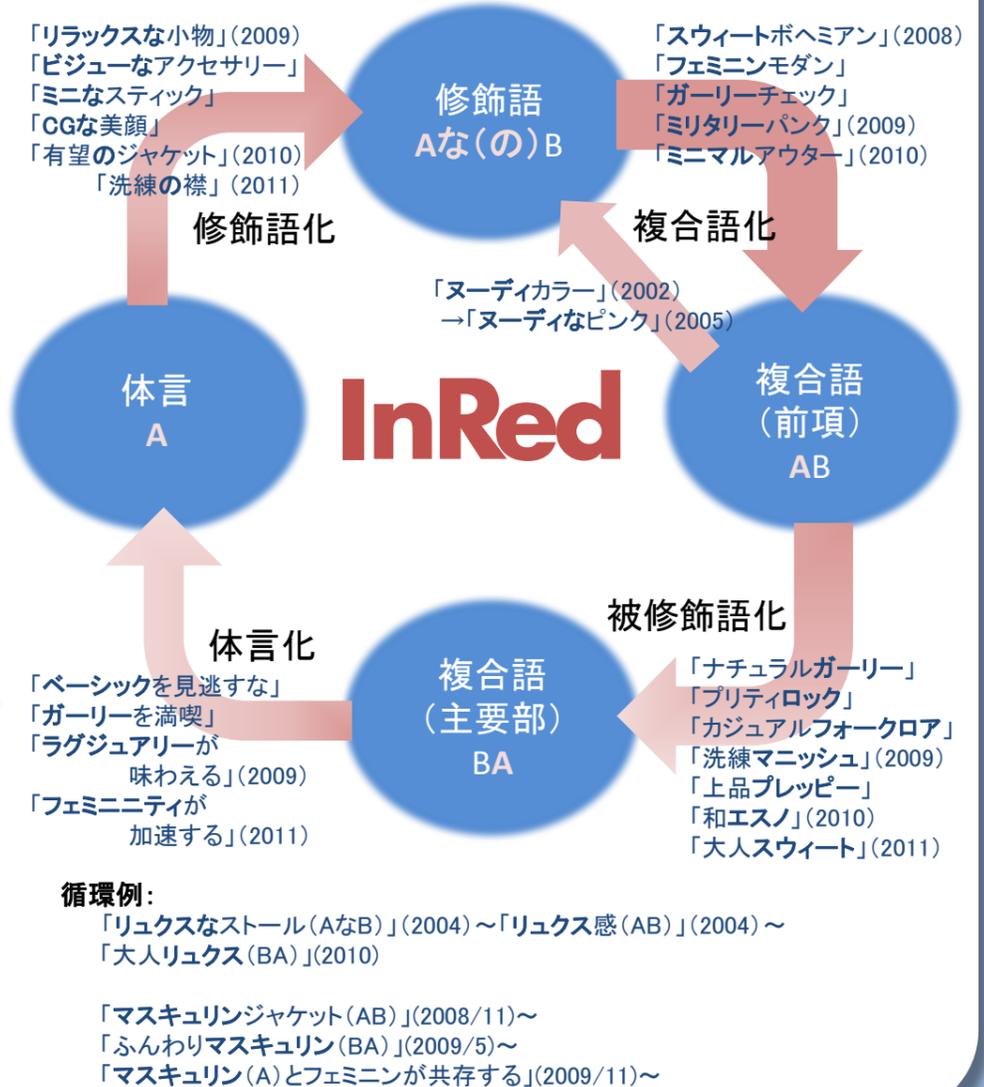


異表記: 表記で通常の場合との意味の違いを表す  
「LOVEバッグ」「スカーフで華やぎをIN」  
「キレイ色」「オンナっぽい」「コーデのハズシ」

### 接続の変化による用法の<新しさ>

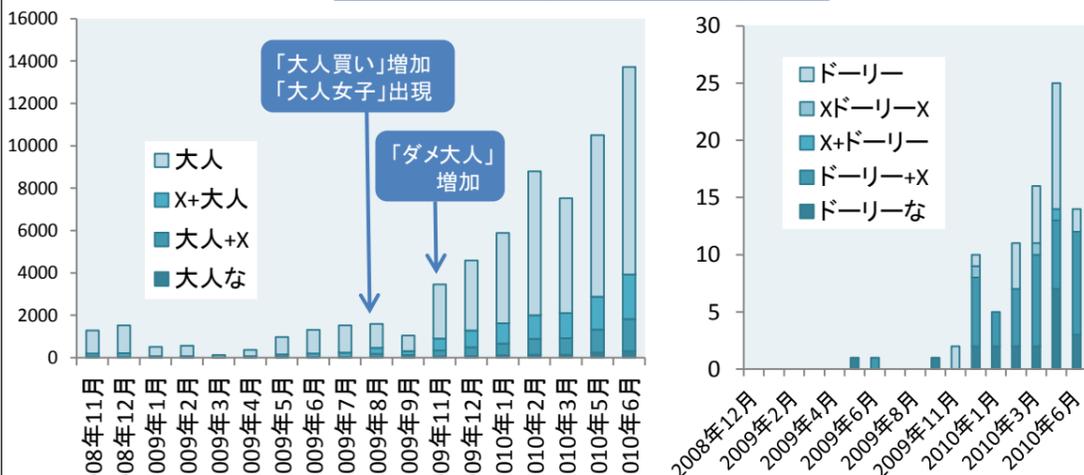
同一の語を用いた表現型のパターンは有限  
→**表現が循環する**

ある表現型が使い古される→使用される例の少ない用法へ移行  
既に用例が定着しているフェイズはスキップ  
用例が減少・完全に見つからなくなる場合もある



## <新しさ>を指向する言語

程度の違いはあれ、他のドメインでも表現の循環が見られる



【「大人」と「ドーリー」の用例頻度 (Twitterデータで確認)】

## まとめ

- 女性向けファッション雑誌において
- <新しさ>のために表現が変化し、循環する
  - 同一の語でも、接続や表記などを変えて、<新しさ>を担える可能性がある
  - 『InRed』における表現の循環
    - 用例数の少ない用法へ移行
    - 他分野や古い語、異表記など(再生・組込例あり)
- ① 修飾語
  - ② 複合語(前項)
  - ③ 複合語(主要部)
  - ④ 体言(単独用法)



テキストにおける身体部位の出現頻度による人体図

- ・言語一般に共通の性質である可能性
- ・現実と表現上の差を利用